



環境の森センター・きづがわ建設に向けて

～ “環境の森センター・きづがわ”は、皆さんの日常生活に欠くことのできない施設です～

老朽化が進む打越台環境センターに代わる新たなごみ焼却施設“環境の森センター・きづがわ”の早期整備・稼働に向けて、取り組みを進めています。

予定では、平成27年度に実施設計を終えて、平成28年度に施設(プラント・建築物)整備工事に着手し、平成30年4月から試運転をおこない、平成30年9月の稼働を目指しています。

※7月号の広報でお伝えしたとおり、市民の皆さんから応募いただいた名称案の中から、打越台環境センターに代わる新たなクリーンセンターの名称に「環境の森センター・きづがわ」を選定しました。これまで「クリーンセンター」によりお伝えしてきましたが、平成27年9月から「環境の森センター・きづがわ」と表記していますので、よろしくお願いします。建設地周辺の環境を大切に、市民の皆さんから信頼される安心・安全な都市施設をめざして整備を進めます。

去る7月15日に敷地造成工事が完成しました。敷地の現況は右のとおりです。法面を雨等から保護するための緑化が進んでいます。法面緑化にあたっては、生物多様性に配慮して、地域樹種から種子を選びました。

先月号に続き、これまで市民の皆さんからいただいた“環境の森センター・きづがわ”の施設整備に関する質問、疑問にお答えします。



○ごみを焼却した時、白い煙は見えるのですか？

ごみ焼却場の中には、煙突から白い煙のようなものが見える施設がありますが、これは煙ではなく、水蒸気です。寒い日に、人の吐く息が白くなるのと同じ原理で、水蒸気が細かい粒となって、白く見えるものです。“環境の森センター・きづがわ”では、年間を通して、白い水蒸気が、ほとんど見えないように設計を進めています。

○先進施設を見学した際、イメージと異なり臭いを感じないのですが、どのような対策をしているのですか？

最近の施設では、臭気が外にでないよう、様々な工夫がされています。主な対策としては、施設内の臭いのついた空気を焼却炉へ送り、ごみと一緒に高温で燃焼して臭気を分解します。なお、保守作業等で焼却炉が休止している時は、活性炭による脱臭装置に吸い込み消臭します。このように、臭いのある部屋は、たえず外部の空気を吸い込む状態(負圧状態)となっています。また、ごみ収集車が利用する施設の出入口にエアーカーテンを設置し、施設内の空気が外に出ないようにしています。“環境の森センター・きづがわ”にも、これらの工夫を取り入れて、臭気対策を講じることとします。

○“環境の森センター・きづがわ”の排水はどうなるのですか？

“環境の森センター・きづがわ”では、水の有効利用と下流水域に影響しないよう、ごみを焼却する際に利用するプラント排水を施設内で再利用(クローズドシステム)することとします。ただし、事務室等から排出される生活雑排水は、合併浄化槽で適切に処理した上で放流します。また、施設の屋根等に降った雨水を貯留槽に集めて散水等に利用するなど、雨水の有効活用を図ります。

“環境の森センター・きづがわ”の早期稼働に向けて、地元の皆さんをはじめ、市民の皆さん一人ひとりのご理解とご協力をよろしくお願いします。

クリーンセンター建設推進室(まち美化推進課内) ☎ 75-1226 Fax72-3900 E-mail: clean-center@city.kizugawa.lg.jp